

## 第3学年 音楽科 学習指導案

207911 音楽教育専修 松岡花

### 1. 単元名 茶つみのリズムを味わおう！ ―茶摘みの文化―

#### 2. 単元の目標

##### ○（知識・技能）

曲想と音楽の構造などとの関わりについて気づくとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱・器楽・音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

茶つみの独特なリズムを手で叩き、そこから手遊びの活動に繋げる。

付点のリズムを意識しながら、拍に合わせてのびやかに歌うことができる。

##### ○（思考・判断・表現）

音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

日本各地のわらべ歌を調べ、それぞれの歌に込められた思い（特に茶つき）を知る。自分なりの解釈から音楽表現を考える。

##### ○（主体的に学習に取り組む態度）

進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

わらべうたの多くは振付がある。クラスの友達と楽しく体を使って音楽を楽しむ。

茶摘みの文化を調べ、体験する中で、茶摘みに込められた思いを知る。調べ学習に進んで取り組み、グループの中で協力してまとめ発表する。

### 3. 単元について

#### （1）教材観

ト長調、4分の4拍子。作詞作曲者は不詳。

付点四分音符が使われたリズムが特徴的である。

「八十八夜」とは日本の農業の中で大切にされている地域である。そこで摘まれたお茶は新茶と呼ばれる。新茶は栄養価が高く、縁起物だとされる。「茜だすき」は止血剤として使われている。茶摘みで指先にケガをしたときに使われたと考えられる。歌詞の最後にある「つまにゃ 日本の茶にならぬ」の“日本”は地域によって異なり、各地の地名が入る。地方ごとに受け継がれてきた文化であると分かる。

手摘みのお茶は新茶のみを採取するため、機械摘みと比較しても雑味が少ない。手摘みの場合一日に10グラム～20グラム程度しか採取することができず、高級品とされる。

フレーズの中で「呼びかけと答え」のような掛け合いになっていることが特徴である。旋律を確認し、歌の練習を行うことでフレーズを感じることができる。

茶摘みの手遊びは茶摘みの文化を体感することができる。また、歌にある付点のリズムと合わせることで拍を感じることができる。

## (2) 児童観【省略】

## (3) 指導観

「みつめる」では曲に合わせて手遊びを行い、茶つみの独特のリズムを感じさせる。また、手遊びの動作から茶摘みの手法を体感させる。

「調べる」では茶摘みとはどのようなものなのかを調べる。調べる方法として、①言葉の意味を辞書で調べる、②機械摘みと手摘みのお茶を飲み比べる、③茶摘みの文化を受け継いでいる人の話を聞く、の3つを実施する。①では歌詞と合わせて教科書の写真やインターネットで調べさせる。「茜だすき」「八十八夜」という茶摘みの文化を感じられる言葉から、歌と文化のかかわりに気づかせる。②③では、機械の方が効率よくお茶の葉を摘むことができるにもかかわらず、あえて手摘みの文化を大切にしている理由を考えさせる。手摘みと機械摘みでは新芽を厳選しているものと古い葉が混ざっているもので差が生まれる。お茶の香りや茶葉を見て、実際に話を聞く中で違いに気づかせる。

「深める」では「調べる」でわかったことを踏まえて歌詞を確認する。地域によって歌詞の「にほんの～」の部分が変わることを伝え、そこに地域らしさがあることを感じさせたい。フレーズの中で「呼びかけと答え」になっていることを継続的に意識できるよう、音取りの段階からフレーズ1つ1つに分けて練習する。リズムの確認では付点のリズムに注意して歌わせる。まずは手でリズムを叩いて「ターン・タ・タンタン」のリズムを意識させる。

「広げる」では歌の練習後、手遊びをしながら歌う。手遊びは四分音符のリズムに合わせて動くので、拍を意識して歌うことができる。また、3次で練習した付点のリズムを意識しながら歌わせる。1次でも手遊びを行うが、4次の最後にはこれまで調べてきた茶摘みの文化とその思いを意識しながら演奏させる。

## (4) ESDとの関連

### ○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・多様性…地域によってそれぞれの特徴を持った音楽が受け継がれている。一人一人違った音楽表現があることを知る。
- ・責任性…文化の大切さを知り、継承していくことが必要であると理解する。機械摘みのお茶と手摘みのお茶を飲み比べてその違いに気づき、手摘みの文化を次世代へと継承していく必要性に気づく。

### ○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・コミュニケーションを行う力

手遊びの活動を通じて、相手の表情、手の動きを見て自分たちの音楽を作る。

- ・繋がりを尊重する態度

文化を継承していくことの大切さに気付く。お茶を摘む文化から、農作業をする人たちにとって“八十八夜”が大切な一日であることに気づく。お茶は人々の生活に必ずあって、それがどのようにしてできているのかを知る。音楽に合わせて手遊びを行い、茶摘みを体感する。

### ○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・幸福であることを大事にする

お茶を飲む文化、茶摘みの文化が大切に引き継がれている。

- ・世代間の公正

途切れることなく次世代へと文化を受け継いでいる。

・人権・文化の尊重

地域の大切な文化として受け継がれている。

音楽を通して茶摘みの文化に触れる。

○達成が期待されるSDGs

4：質の高い教育をみんなに

11：住み続けられるまちづくりを

15：陸の豊かさを知ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持つことができる。</p> <p>② 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気づくことができる。</p>	<p>① 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができる。</p>	<p>① 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全5時間）

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	<p>○茶摘みを聴く。歌う。</p> <p>○茶摘みの音楽に合わせて手遊びを行う。</p> <p>○茶摘みの様子を映像で見る。</p> <p>○手遊びをしながら歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズごとにピアノで音取りをさせる。</li> <li>・手の動きから、茶摘みの情景を思い浮かばせる。教科書の写真も見せる。</li> </ul>	<p>△ア①②</p> <p>△イ①</p>
2	<p>○茶摘みの文化を調べる。</p> <p>○手摘みのお茶と機械摘みの茶を飲み比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞にでてくる「茜だすき・すげの笠・八十八夜」というワードに注目し、言葉の意味と文化を関連つけながら調べさせる。</li> </ul>	<p>△ウ①</p>
3	<p>○茶摘みの文化を受け継いでいる人の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>わざわざ手摘みの方法をしていることに注目させ、大切な文化であることに気づかせる。</u></li> </ul>	<p>△ア②</p> <p>△ウ①</p>

4	<p>○歌詞を確認する。</p> <p>○旋律を確認する。</p> <p>○リズムを確認する。</p> <p>○茶つみを歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを思い出しながら読ませる。</li> <li>・「呼びかけと答え」になっていることを意識させる。</li> <li>・付点に注意して、拍を意識させる。</li> <li>・歌のリズムを意識して歌わせる。</li> </ul>	
5	<p>○手遊びをしながら歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶摘みの情景を思い浮かばせる。</li> <li>・茶摘みが大切な文化である、大切に引き継がれてきた幸福感を持たせる。</li> <li>・茶つみのリズムを意識しながら歌わせる。</li> </ul>	